

答 町 長

扇谷議員自身も高校魅力化推進委員でもあり、「島親」を引き受けるなど日頃のご尽力に感謝したい。

今回のアンケートについて、どの様な考えで行ったのか分からないが、「もっと地元の子も大切にしてほしい」という、その捉え方というのが、非常にある面では誤解を招くし理解し難い。

私はイターンとか、Uターンとか以前から区別をしていない。このことははっきりしておきたい。この取り組みに対する情報というものは、こちらから呼びかけをしても、町民の方が自ら受け取ろうとしない。は絶対に伝わらない。

しかし、行政としてはその努力は惜しまないし、今後も粘り強く情報を流し、お互いの共有化に努めたい。

扇谷議員の熱意は、新議員として期待をしており、このプロジェクトの永続性というもの意識しながら引き続き、かつ慎重に推進委員の一員としてご協力を戴きたい。

8 月臨時会

第 509 回臨時会が、8 月 1 日に開催され、上程された左記の 2 議案について慎重に審議し、原案のとおり可決いたしました。

■建設工事請負契約について

▼事業名

総務省地域公共ネットワーク等強じん化事業（補助）

海士町地域ケーブルテレビネットワーク強靱化整備工事

▼契約の目的

崎地区、多井地区へ無線ルートを整備し、災害時のバックアップ回線として、テレビ放送の複線化を行うための整備工事

▼契約の方法

一般競争入札

▼契約金額

7、452 万円

▼契約の相手

NTT ビジネスソリューションズ（株）

島根営業所長 北山陽将

▼工期

着工 議決の日の翌日
完成 平成 26 年 9 月 30 日

■建設工事請負契約について

▼事業名

総務省地域公共ネットワーク等強じん化事業（補助）

海士町防災情報ステーション等整備工事

▼契約の目的

公共施設及び避難所 24 カ所に無線アクセス等を整備し、インターネットによる防災情報ネットワークを構築するための整備工事

▼契約の方法

総合評価方式（公募型プロポーザル）

▼契約の金額

9、449 万 8、989 円

▼契約の相手

（株）ミライト中国支店
支店長 石田真人

▼工期

着工 議決の日の翌日
完成 平成 26 年 9 月 30 日



諸般の報告

6 月

海士校区四区協議会
議会運営打ち合わせ
海士町環境美化推進対策会議

7 月

はついでこーでいねーたー会議
隠岐國学習センター地鎮祭
例月現金出納検査
町村議会監査委員協議会研修
農業委員会
広報調査特別委員会

8 月

第 509 回海士町議会臨時会
政調会
海士町成人式
与謝野町議会議員視察対応
例月現金出納検査
島根県ろうあ連盟の陳情
第 19 回キンニヤモニヤ祭り



【編集後記】

■レインボービーチの海開き（海士開き）と共に、山陰地方も梅雨明けをした模様と報じられた。夏恒例の諸行事のスタートであった。

今年は、菱浦、中里、知々井の 3 地区が大祭り（夏祭り）で、それぞれの地区の「色合い」を見せる御旅、御輿に一層の賑わいを見せた。額に汗する若者たちの中には、地区を越えて協力する様に、しっかりと伝統・文化の大切さが受け継がれていくものと感動した。

■お盆、成人式、キンニヤモニヤ祭り、海士の夏は続く。特に、キンニヤモニヤ祭りは「海士の夏の集大成！」島内外の人々との交流の深まりが期待される。

『祭り』の終わりを告げると秋の気配を感じる頃となるだろう。一面に広がる田園の緑から黄金色への変化も近い頃だ。

（8 / 7 扇谷光恵記）

答 町 長

増田会長の論考（中央公論 2013年12月号）を示しながら、確かに自治関係者に影響を与え始めているが、議員と同様、これをどう読み解くのが問題で、未来の日本社会についての一つのデータだと捉えている。まず起点が2010年だが、これは4年前のことで、今の海士町の実態からは馴染めないデータであり、記述に一喜一憂することははない。

勿論データは視野に入れながら、大事なものは、あきらめず本町はこれからどうやっていくのかを模索し、取り組んでいくことが私の責任だと心得ている。

4期目のスタートを切ったが、3期目までの事柄を踏襲し、今日の海士町をつくって来たことに間違いなく、決して私一人のリーダーシップでなく、ひとえに職員スタッフに支えられてきたことだ。役場がまずリードしていく事が大事だということは今後変わりはないと思っている。

これからの海士町を模索す

大きな施策として、内閣府の「持続可能な未来づくりへの学びの島」(地域活性化モデルケース)が始まる中で、小さな島が生きていくため、持続していくためには、やはりトータルで生きていくしかない。トータルの中で、残すべきものは残しながら、この事業に取り組んでいく所存だ。

人材の登用について

問 波多議員

地域活性化における日本の先進事例の中で、多くの場合「あの人物(キーパーソン)がいたから出来た、成功した」というのが共通点だ。

しかし、カリスマ性のある地域リーダーの継承者が育っていないという歎きも聞かれる。

活躍した地域リーダーの世代が引退しても、次世代がその理念と事業を確実に引き継ぐシステムが存在することがその悩みを解決することになると思う。

役場にはキーパーソンに相

応しい有能な人材が豊富に存在しているとみる。町長は4期目の決意として、「この4年間を次世代に引き継ぐスタートの年にしたい。そのための総仕上げの4年間だ」、「若いリーダーにバトンタッチできる体制を整えたい」とする考えを重ねて表明している。町長の町政継承の決意を見える形の人事を問う

答 町 長

何故4期もやるんだという意見もあつたが、「やりたくてやるのか」、「やりたくないのか」という議論ではない。

役場職員の構成状況を見ると、もう4、5年もすればここにいる管理職は全部退職していくことになる。

そういう中で、後の役場の状況を考えると、特定のものに院政を引くことにはならない。



新たに庁舎正面に掲げられた町政の経営指針。
『自立・挑戦・交流 ～人と自然が輝き続ける島に～』

誰が次の町長だとか、誰が次の副町長だとか言うことではなく、私がこれからやる4年間の仕事というのは、職員全体のレベルアップをしていく事だと思っている。誰が次の町長になっても良いような、職員の底上げや、レベルアップするよう皆が切磋琢磨していく体制づくりを図っていききたい。

職員に常に言っていることは「熱意・誠意・創意」だと。熱意とは「志」である。そういう職員に育てたいと考えている。

島前高校魅力化プロジェクトの持続性について

問 扇谷議員

島前高校魅力化プロジェクトも7年目となり全学年2クラスとなった。最近ではメディアにも取り上げられるようになり、全国的に注目を浴びるようになってきた。

一方、地元の一部保護者において、試行的にアンケート等を取った中に、「よく分からない」「もっと地元の子も大事にしてほしい」との意見があるなど、この取り組みについて十分に理解、浸透していない部分を感じられた。

高校存続、また魅力ある高校の推進、これらを維持していくための取り組みを、持続性のあるものにしていくには、どのようなアプローチをすべきか、今後の課題とも考えると思うが、町長の所見を問う。



扇谷光恵 議員